

追悼の言葉

——小松雅雄先生へ——

麗澤大学経済学部長

高 巖

平成22年10月16日、小松雅雄先生の訃報に接し、ただただ愕然とするばかりでした。

小松先生の麗澤大学国際経済学部（現在の経済学部）に対するご貢献には、言葉では語り尽くせないものがあり、常々、敬愛の念を強く抱いておりました。それだけに、先生が他界されたとの知らせは、私のみならず、経済学部の全教員、職員に深い悲しみを与えました。

現在、私は、微力ながらも経済学部の学部長を務めさせて戴いておりますが、本学部をゼロから拓かれた先生のご苦勞とご努力に、頭が下がる思いでいっぱいでございます。ここに改めて、初代学部長として小松先生が経済学部に捧げてくださった愛情と情熱に、衷心より感謝の意を表させて戴きます。

私がまだ30歳台で着任の頃だったと記憶しております。当時は、新入生全員を連れて、谷川セミナーハウスに研修に行っておりましたが、大半の教員も引率で谷川まで一緒させてもらっておりました。昼間は、私どもも新入生の指導にあたっておりましたが、夜は教員同士で色々と語り合ったのを覚えております。

その話の輪の中には、いつも小松先生がいらっしゃり、本当に優しいお声とお顔で、私たち若手教員にもお酒を勧めてくださいました。その場では、教員全員が家族のように語り合っていたと記憶しております。今想えば、あの温かい和んだ雰囲気も、結局、小松先生のお人柄が醸し出していたんですね。

小松先生については、その社会的影響の大きさについても語らずにはおれません。多くの研究業績を残され、また優秀な研究者を輩出されたことは言うまでもありませんが、私がここで触れたいのは、先生が実業の世界に与えた影響の大きさと、そこに垣間みた先生の麗澤に対する思いです。

平成14年頃より、仕事の関係で、私も色々な会社の幹部と接する機会が増えてきました。その関係で、幾度も「小松先生に育てて戴きました」という声を耳に致しました。多くは早稲田大学の卒業生（当時はまだ国際経済学の卒業生はあまりおりませんでした）ですが、皆さん、「小松先生が麗澤大学のことを何度も口にされておられた」「麗澤は本当に良い大学になるからとの夢を語っておられた」と教えてくださいました。

初代学部長のそうした思いがあって、国際経済学部は輝かしいスタートを切り、事実、大きな飛躍をとげました。しかし、その後、大学を取り巻く環境は徐々に厳しくなり、現在では、本学部も決して順風満帆という状況にはございません。残念ではありますが、この事実を認めた上で、小松先生に、学部を代表し、次の言葉を贈らせて戴きます。

「小松先生、天国より私どもを見守っててください。教職員一同がこれまで以上に力をあわせ、麗澤大学経済学部にかつての輝きを取り戻し、さらに先生が期待されていた以上の経済学部へと発展させていきますから！」

ここに、このような追悼の言葉を記すからには、全身全霊で実行するしかありませんね。本学部をゼロから拓かれた先生のご苦勞を想えば、それも決して大したことではないと思います。誠意誠心をもって努力させて戴きますので、小松先生、天国より、応援しててください。先生のご冥福を衷心よりお祈り申し上げます。

平成22年11月17日